基本中国語学双書 7

諺語のはなし

中国のことわざ

伊地智善継・牛島徳次・香坂順一 監修

高橋均 東京外国語大学教授
高橋由利子 上智大学助教授 編訳

温端政著

諺語のはなし

中国のことわざ

江苏工业学院图书馆藏章

光生館

基本中国語学双書 7

基本中国語学双書⑦
諺語のはなし—中国のことわざ—

1991年9月20日　初版第1刷発行

原著者——温 端 政
編訳者——高橋　均
　　高橋由利子
発行者——中川廣一
印刷者——春山宇平

発行所——株式会社　**光生館**
〒112 東京都文京区大塚2—1—17
振替東京4-130621　TEL3943-3335(代)

印　刷——株式会社共立社印刷所
製　本——佐抜製本株式会社

(著者の承認をえて検印を省略しました)

©H. TAKAHASHI・Y. TAKAHASHI　Printed in Japan

法律で認められた場合を除き，本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは著作権法違反となりますからご注意下さい。

ISBN 4-332-87024-7

監修者のことば

中国語の学習が進むにつれ，中国語を体系的に把握してみたい，あるいは中国語そのものの周辺をもう少し探ってみたいという意欲が生れる。しかし，日本の中国語界にはこれに応えうるだけの準備が十分でなかった。学習者はその意欲を，何によってどのようにして満たすかを知らず，ただ彷徨のうちに時を費す例が少なからず見られた。

私達は，日本における中国語の普及と向上とを心から願い，これまで応分の努力を重ねてきたつもりである。向上は学習者に尽きるところのない意欲があってこそ期待できる。同時に意欲を正しい方向に発展させなければ，真の向上はありえない。

光生館はさきに《中国語学習研究双書》を刊行，学習者のこのような求めに応えようとした。しかし，この双書には，その書名に『研究』という文字が入っているように，やや専門的にわたるところが少なくない。初級の段階を経た学習者が，ただちに無理なくしかも興味をもって手にするには，いくばくかの難点があった。1984年，光生館は中国商務印書館との出版提携契約を結び，その一つとして中国語を体系的にとらえると同時に，中国語を内側から探るのに役立つ双書を企画した。商務印書館側はこの求めに応え，中国の一流研究者に依頼し，中国語をいくつかの分野に分けて，それぞれについて解説的にまとめた稿を光生館に寄せて

きた。

私達は早速これを検討した結果，若干の部分を日本の中国語学習者に向くよう改め，また補うべきところを補えば，私達が長年期待していた双書になるという自信に似たものをもつことができた。私達は，それぞれの分野ごとに，日本の中国語学界で，顕著な業績をあげている研究者，あるいは中国の執筆者から直接指導を受けたことのある優れた研究者に協力を仰ぎ，この方たちにおおはばな改筆補筆の自由を保証し，『無理なく，興味のもてる，親しめる《基本中国語学双書全8巻》』として，日本の中国語学習者に提供することにした。

中国語は世界でもっとも長い歴史をもった言語である。それは長い歴史の間，ただ漢民族の口頭から発せられた言語というにとどまらず，文字によって記録されたものが現に存在しているという，驚異に価いする特徴をもっている。したがって，中国語は歴史的な重みのある，密度の高い言語であり，現代中国語の学習にも，つねにその歴史的なものがかぶさって来る。これを無視しては，中国語を中国語として理解することはできない。理解のないところに興味も親しみもわかず，さらなる意欲が生れるはずもない。

私達は，学習者が自らの学習に楽しみをおぼえ，さらなる意欲を生むうえで，この双書がかならず役立つものと信じ，あえて監修の仕事をひきうけた次第である。

1986年9月6日

伊地智善継・牛島徳次・香坂順一

（五十音順）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

編訳者まえがき

身近な存在でありながら，いざ学問的なテーマとして取り扱おうとすると，手からするりと逃げてしまってとらえどころがないというものがあるが，「ことわざ」もその一つであろう。中国語の世界においても同様で，ことわざを集めて分類したものや，その意味や用法の説明をした辞典類は数多くでているものの，正面からことわざと言語学的に取り組んだ書物は非常に少ない。その点で，ここに訳出した温端政著「諺語」は貴重な労作である。

全七章からなる原著の，第一章から第三章では，ことわざの定義から始まり，ことわざが歴史的・社会的観点から分析され，いわば言語社会学的な考察が行われる。

第四章から第六章では，ことわざの意味分析，構造分析がなされ，ことわざの意味論，文法論が展開される。

最終章の第七章では，ことわざの修辞学的側面に焦点が当てられるが，これはことわざの持つ働きからも欠かせない考察であろう。

以上の概要からも分かるように，この書物はことわざの考察を通して，われわれに中国語という言語のもつ歴史的，社会的な広がりと表現の奥深さを教えてくれるものである。

原著に引かれる例文は，古典から現代語に至るまでの，幅広いジャンルにわたるもので，それを前後のコンテクスト抜きで意味

が通じるように訳出するのは，非常に困難な作業であった。できる限りベストを尽くしたが，自らの非力に内心忸怩たる思いである。

翻訳にあたり，その一々の書名は記さないが，中国，および日本で出された多くの業績を参考にさせていただいた。また，多くの方々のご教示を受けたが，中でも，富井義則氏、富井展子氏、小林二男氏、豊嶋裕子氏などには多くの教えとご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を示したい。

本書がこのような形になるについては，光生館編集部岡田雅行氏の周到なお力添えがあった。ここに記して厚くお礼申し上げる次第である。

1991年3月20日

高橋　　均

高橋　由利子

伊地智善継・牛島徳次・香坂順一監修

基本中国語学双書

全8巻

本双書は，中国商務印書館との提携契約出版の一つとして，中国の一流研究者より寄せられた稿を，日本人学習者向けに改め・補い，中国語のそれぞれの分野ごとに平易に解説した中国語学の入門書である。

1　文法のはなし　B 6 判上製 236頁

——朱德熙教授の文法問答——

朱德熙原著　中川正之・木村英樹編訳

2　文字のはなし　B 6 判上製 300頁

——文字の基本知識——

李荣原著　志村和久編訳

3　語彙のはなし　B 6 判上製 280頁

——語彙の基本知識——

郭良夫原著　大川完三郎編訳

4　成語のはなし　B 6 判上製 320頁

——成語の基本知識——

刘洁修原著　上野恵司編訳

5　歇後語のはなし　B 6 判上製 278頁

——中国のことば遊び——

温端政原著　相原茂・白井啓介編訳

6　音韻のはなし　B 6 判上製 270頁

——中国音韻学の基本知識——

李思敬原著　慶谷壽信・佐藤進編訳

7　諺語のはなし　B 6 判上製 292頁

——中国のことわざ——

温端政原著　高橋均・高橋由利子編訳

8　日中同形語のはなし　B 6 判上製 260頁

——日中同形語の基本知識——

何培忠・冯建新原著

上野恵司・喜多山幸子編訳

目　次

監修者のことば …… 1

編訳者まえがき …… 3

1　ことわざとは何か …… (1～30)

§1 ことわざとその定義…… 1

1•1 ことわざとは…… 1

1•2 ことわざの定義…… 6

§2 広義のことわざと歌謡・成語・格言…… 7

2•1 広義のことわざとは…… 7

2•2 ことわざと歌謡…… 9

2•3 ことわざと成語……11

2•4 ことわざと格言……15

§3 狭義のことわざと歇後語・慣用語・口語的成語……17

3•1 狭義のことわざとは……17

3•2 ことわざと歇後語……21

3•3 ことわざと慣用語……26

3•4 ことわざと口語的成語……29

2 ことわざの誕生と展開……(31～59)

§1 ことわざの誕生と伝承……31
§2 ことわざの発展……37
2•1 社会の進歩とことわざ……37
2•2 異文化の交流とことわざ……44
§3 言語の変化とことわざ……48
3•1 文言から白話へ……48
3•2 意味と用法の変化……50
3•3 形式の変化……53

3 生活に生きることわざ……(60～113)

§1 ことわざの広がり……60
1•1 自然とことわざ……60
(1)仕事のことわざ……61
(2)気象・風土・日常生活のことわざ……75
1•2 社会とことわざ……84
(1)哲学のことわざ……84
(2)革命のことわざ……87
(3)倫理・道徳のことわざ……90
§2 ことわざの科学的検討……94
2•1 ことわざの科学的根拠……95
2•2 ことわざの限界……101
(1)社会的歴史的限界……101

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

(2)認識上の限界…… 103
(3)表現上の限界…… 106
§ 3 地域，民族とことわざ…… 108

4　ことわざの意味論……(114～142)

§ 1 ことわざの意味分析…… 114
1•1 意味より見た三類型…… 118
1•2 ことわざの深層意味と表層意味…… 119
(1)引申…… 119
(2)抽象…… 121
(3)概括…… 122
§ 2 ことわざの一義性と偏義性…… 124
2•1 一義性のことわざ…… 124
2•2 偏義性のことわざ…… 128
§ 3 同義のことわざと反義のことわざ…… 133
3•1 同義のことわざ…… 133
3•2 同義のことわざの効用…… 137
3•3 反義のことわざ…… 140

5　ことわざの構造分析……(143～176)

§ 1 圧縮と引き伸ばし…… 143
1•1 圧縮による単純化…… 143
(1)統合型…… 143
(2)省略型…… 145

(3)主要語突出型…… 146
1•2 引き伸ばしによる対句化…… 147
(1)字数をそろえる…… 147
(2)文型をそろえる…… 148
§ 2 多様な文型…… 155
2•1 単文型…… 155
(1)非主述文…… 155
(2)主述文…… 157
2•2 複文型…… 159
(1)接続詞を使わない直接結合…… 160
(2)接続詞を使った間接結合…… 163
§ 3 文の流動性…… 169
3•1 字句の変換…… 170
3•2 順序の変換…… 171
3•3 省略…… 172
3•4 附加…… 174

6　ことわざの文法的機能……(177～207)

§ 1 単独の文として，文群の一部となる…… 177
1•1 独立の文の形式…… 177
1•2 文群中の位置とその働き…… 180
§ 2 分句として，複文の一部となる…… 186
2•1 分句のタイプ…… 186
2•2 分句と独立の文との区別…… 188

§ 3 構造として文の一部となる…… 190
3•1 主語…… 191
3•2 述語…… 193
3•3 賓語〔目的語〕…… 196
3•4 定語〔形容詞的修飾語〕…… 200
3•5 複指成分〔同位成分〕…… 202
3•6 その他…… 204

7　ことわざの修辞学 ……(208～243)

§ 1 ことわざの修辞的特徴…… 208
1•1 音律の重視…… 210
(1)四字句のリズム…… 210
(2)五字句のリズム…… 211
(3)六字句のリズム…… 212
(4)七字句のリズム…… 213
(5)その他のリズム…… 214
(6)平韻のことわざ…… 215
(7)仄韻のことわざ…… 216
1•2 用語の選択…… 217
(1)口語の多用…… 217
(2)同義語と反義語…… 219
(3)数量詞…… 221
1•3 表現のバリエーション…… 223
(1)破格…… 223

(2)比喩…… 226
(3)誇張…… 227
(4)代表化，擬人化，写生化…… 229
§ 2 ことわざの修辞的効果…… 232
2•1 説得…… 232
2•2 概括…… 235
2•3 象徴…… 238

原著者あとがき …… 244

編訳者あとがき …… 245

例文出典一覧表…… 247
中国語索引…… 251
日本語索引…… 269

1

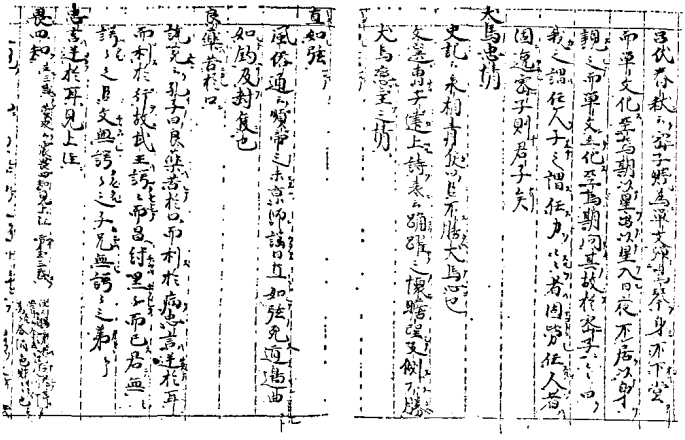
ことわざとは何か

§1　ことわざとその定義

1・1　ことわざとは

(中国語では，ことわざは数が多いばかりではなく，広い範囲で実に頻繁に使われる言い回しである。)これは歴史的に見ても検証できる。先秦時代に書かれた《左伝》《国語》《戦国策》，漢代の《史記》《漢書》などの古典には，すでに沢山のことわざが引かれている。時代が降って，元代や明代の雑劇や《西遊記》《水滸伝》《儒林外史》《紅楼夢》といった古典小説となると，いっそう頻繁に使われるようになった。

また，ことわざとか俗語だけを専門に集めた書物も早くから作られている。現在まで残っているものとして，宋代の周守忠の《古今諺》，明代の楊慎の《古今諺》，郭子章の《六語》，清代の翟灝(てきこう)の《通俗編》，銭大昕(せんたいきん)の《恒言録》，陳鱣(ちんたん)の《恒言広証》，曾廷梅の《古諺閑譚》，胡式鈺(こしきぎよく)の《語竇(ごとう)》，鄭志鴻の《常語尋源》などがある。なかでも清代の杜文瀾(とぶんらん)が著した《古謡諺》はことわざの集



《世俗諺文》源為憲撰　平安時代に日本で編纂された俗諺集

大成ともいえるもので，全百巻，上古から明代までの古典で使われていることわざや民謡が集められている。また近代になって作られたことわざの専門書としては，史襄哉の《中華諺海》，朱雨尊の《民間諺語全集》，さらに解放後には《中国諺語資料》などがある。これらの中には膨大な数のことわざが収録されている。

〈党八股に反対せよ〉という文章で，毛沢東主席は言葉の学び方に言及しているが，そこでまず「人民大衆から言葉を学ばなければいけない」といい，「民衆の語彙は大変豊かで，生き生きしており，実際の生活を表現している」と指摘している。ことわざは，民衆の言葉の重要な要素である。ことわざを学ぶことで私たちは語彙を豊かにし，言葉を運用する能力を高めることができる。と同時に，ことわざにはあらゆる事象が網羅されているから，こ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com